

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成24年11月22日 (2012.11.22)

【公開番号】特開2010-100620(P2010-100620A)

【公開日】平成22年5月6日 (2010.5.6)

【年通号数】公開・登録公報2010-018

【出願番号】特願2009-234672(P2009-234672)

【国際特許分類】

C 0 7 B 63/00 (2006.01)

C 0 1 B 3/32 (2006.01)

C 0 7 C 7/12 (2006.01)

C 0 7 C 9/06 (2006.01)

C 0 7 C 9/15 (2006.01)

【F I】

C 0 7 B 63/00 F

C 0 1 B 3/32 A

C 0 7 C 7/12

C 0 7 C 9/06

C 0 7 C 9/15

【手続補正書】

【提出日】平成24年10月4日 (2012.10.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 7】

特許文献 10 には、遷移金属カチオン (C u、A g) により交換された Y ゼオライト等のミクロ孔固体を使用して、         - コンプレックス化現象 (         - complexing phenomenon) を介してガソリン等の液体炭化水素留分の脱硫を行うことが記載されている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 4】

固体をベースとする亜鉛フェライトの性能を示す 2 つのパラメータは、記載された例において区別され得る：

・動的容量 (dynamic capacity) ; これは、急進展の直前に吸着剤上に捕捉された硫黄の量に対応する。用いられた操作条件下に、亜鉛フェライトベースの吸着剤の動的硫黄容量は 9 重量%であった；

・飽和容量 (saturation capacity) : これは、飽和後に測定される吸着剤の最大硫黄容量に対応する。用いられた操作条件下に、亜鉛フェライトベースの吸着剤の硫黄飽和容量は 14 重量%であった。